

かわむら **こども** クリニックNEWS

Volume 17 No 9

194号

平成21年 9月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

新型インフルエンザ仙台にも！院長

今年は、どうしてもインフルエンザの話題を避けて通ることができず、今回で3回目となりました。仙台でも新型インフルエンザが流行してきました。何をどう考え、どんなことに注意すればいいのか、考えてみましょう。

新型インフルエンザ(H1N1)は5月以後、一時期対策によって押さえられるかと思っていました。しかし、28週頃(医学的な統計では1月から1週と数えます)から増加して、現在も増え続けています。ちょっと古いデータですが、7月24日の患者総数は4,986例が確定例として報告されました。患者数の増加に伴い、疑い例での詳しい遺伝子検査(PCR検査)は中止となりました。しかし、集団生活の場で2名以上発生した場合にはPCR検査を行い陽性例を新型インフルエンザ患者、その後に発生した例を疑似患者として保健所に届け出を必要としていました。

インフルエンザの発生状況の把握に役立つものに、感染症発生動向調査があります。全国約5,000の医療機関(小児科が約3,000)から、毎週報告され集計されています。テレビでも時々出てきますが、定点あたりの報告数が1.0を越えると、流行が始まったと評価されます。最近の報告(2009.08.28:33週)では、1.69と1.0を上回り、全国的にも流行開始と判断されました。定点医療機関からの報告数をもとに、全国の医療機関を1週間に受診した患者数は約11万人を越えると推計されています。流行は地域によって異なり、都道府県別では沖縄県(29.60)、奈良県(2.96)、滋賀県(2.48)、福島県(2.45)、東京都(2.14)等の順で、沖縄では本格的流行と判断されています。第28週以降定点の分析では、10～14歳が21.0%、5～9歳が20.3%、15～19歳が17.9%、20～29歳が15.7%、0～4歳が10.6%の順でした。5～19歳が患者発生の中心で、20歳代までで全体の約86%を占めています。最近ではPCR検査の97.1%がH1N1のため、インフルエンザ患者の殆どが新型であると考えられています。

その後患者数の増加とほとんどが新型であるという理由で、8月25日から新型インフルエンザの届け出が、厚労省の通知により中止となりました。ということは、新型と季節型の区別が無くなり、扱いが同じになったということです。9月1日現在の厚生労働省へ報告された入院患者数は579例であり、7例の死亡が報告されています。

さて難しい話をしましたが、本当はどう考えたらいいのでしょうか。毎日診察で「熱が出たけどインフルエンザじゃないでしょうか」、「微熱でもインフルエンザのこともあると聞きました」、「咳と微熱があるから検査をしてみませんか」と言われた」など、様々な疑問が寄せられます。今回は症状等を説明する余裕が無いため、症状、治療、予防等に関してはCLINIC NEWS(H21.2、5月号:必要なら差し上げます)を参考にしてください。お父さんやお母さん以上に、保育園、幼稚園や学校が神経質になり過ぎているのです。確かに新型インフルエンザという病名は、イメー

ジとしては非常に悪いものです。恐ろしい、大変な病気との思いだけでなく、発生したことが知られたら、周囲から敬遠される、白い目でみられるなど、そんな思いを持っている人も少なくありません。

新型に関しては、まだまだ分からないことが多いのですが、季節型と比べて明らかに重症度が高い(致死率=死亡率)という訳ではなさそうです。また、感染力や感染経路も季節型と同じと考えていいのです。でも、ひとつだけ大きな違いがあることを覚えておいてください。季節型に対しては多少なりとも免疫を持ち合わせているのとは異なり、新型に対する免疫は誰も(高齢者では免疫があるとの説も)持っていないということです。このことは、これからも流行の規模が拡大するのは事実であり、止むを得ないことです。極端なことを言えば、いずれほとんどの国民が感染してしまうと考えられています。実際、仙台市内でも学年閉鎖や学級閉鎖の学校があり、流行拡大の様相を呈しています。

マスコミで大きく取上げられるだけでなく、死亡例が逐一報道されるため、恐ろしいという印象が拭えません。確かに持病のある人では重症化する可能性もあります。現在のところリスクの高い人としては、慢性呼吸器疾患、慢性心疾患、糖尿病などの代謝性疾患、腎機能障害、ステロイド内服などによる免疫機能不全等が挙げられています。また、妊婦、乳幼児、高齢者の中にも重症化することがあるとされています。しかし、多くのケースでは軽症で、WHOの抗ウイルス薬使用に関する勧告(2009.8.21)では、生来健康な5歳以上の小児では、症状の遷延や悪化が無ければ、必ずしも抗インフルエンザ薬の必要が無いと示されています。逆に基礎疾患を有する患者さんや初期から症状が重い場合には検査結果を待たずに治療してもよいとされています。

とは言うてみたものの、不安が残るのは当然です。多くの子どもは軽症に経過する訳ですから、まずは慌てないということがもっとも大切なことです。以前の記事でも示しましたが、迅速検査が陽性なるのは、38℃以上の発熱後6～8時間といわれています。また従来の検査は新型に対する感度が低く、神戸と大阪の調査では54～77%程度とされています。となると、検査が陰性だから大丈夫という訳にはいきません。感染症情報センターから出された新型インフルエンザ診断ガイドンスでは、“無症状者に対して迅速診断キットを使用した場合には、その意結果が陽性であってもその意義は不明であり、また陰性であっても今後の発症を保証するものではなく、臨床上的有用性はほとんどない”とされ、症状が軽い場合は無理やり診断する必要がないことが述べられています。保育園、幼稚園、学校などで、症状が軽いにもかかわらず、検査をしてみなさいということには意味が無いと思っています。

ここまで書いてきて、どうも収まりきりません。もうひとつ重要なことは、重症化、とくに肺炎や脳症を疑わせるような症状(2面に厚労省のQ&Aを示します)に関しては十分な注意が必要で、その場合には速やかに医療機関を受診してください。

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』

読者の広場

先月は11通のメールを頂きました。今回はスペースが無いので、1通だけ太白区の大竹さんからのメールを紹介します。「夜分遅くにすみません。大竹颯貴・苜依の母です。今日は、夕々にかわむらこどもクリニックを受診して、なんだかとてもホッとしました。先生とのコミュニケーションはもちろんです、スタッフの方々との何気ない会話ややり取りもとても楽しくて、とても安心できて、気が休まる感じがしました。思えば7年前、上の子が産まれたときに先生の著書と出会い、幸運にも先生のクリニックが当時の自宅から最も近い小児科で、健診や予防接種だけでなく、よく熱を出し体調を崩しやすかったために毎週毎週お世話になっていました。とにかく不穏なときはとりあえず駆け込んでいました。おバカな質問などにも毎回わかりやすく答えてくださり、大事なことはメモに書きながら説明して渡してくれましたね。下の子は丈夫な方ですが、たまに風邪をひいたり熱を出したりしても、元気があって機嫌も良ければまあバタバタせずとも大丈夫だろうという余裕があります。経験って大事ですね...!! それでも、今回はゼロゼロが長引いたのが気になってメールしてしまいました。返って来たメールを読み、「やっぱりかわむらクリニックに行こう!」と思って今日伺ったわけですが、先生が開口一番「メールで言っていた症状はどうなった?」とおっしゃったので、夕々のご対面による緊張が一瞬でほぐれてしまったのでした!! 帰るときにはこれまた夕々にクリニックニュースをいただき、患者さんからのメールを読んで激しく共感してしまいました。私もすっかりかわむらマジックの虜になっており、先生から予備の薬の処方だけでなく大きな「安心」をいただいて帰って来ました。本当にありがとうございました。ニュースで先生が体調を崩されていたことを知りましたが、回復されつつあるとのこと、どうかお大事になさってください。倒れられたら困ります~、私の最も信頼している小児科医なんですから!! これからも親子共々どうかよろしく願いいたしますm(_ _)m。メールありがとうございます。またまた、「かわむらマジック」が出てきました。このような評価うれしい限りです。体調はもう心配ありません。ご心配なく。



祝当選 おめでとう! 郡 和子さん

以前から親交があった(待合室にも写真が!), 郡 和子さんが衆議院選挙の宮城一区で、当選されました。

当選後、わざわざ挨拶に来てくれました。一緒に記念撮影しただけでなく、子育て支援策、特に「子ども手当て」を実現するように、しっかりお願いしておきました。



急を要するインフルエンザの症状

小児

- ・呼吸が速い、息苦しそうにしている
- ・顔色が悪い(土気色、青白いなど)
- ・嘔吐や下痢が続いている
- ・落ち着きがない、遊ばない
- ・反応が鈍い、呼びかけに答えない、意味不明の言動がみられる
- ・症状が長引いて悪化してきた

大人

- ・呼吸困難または息切れがある
- ・胸の痛みが続いている
- ・嘔吐や下痢が続いている
- ・3日以上、発熱が続いている
- ・症状が長引いて悪化してきた

新型インフルエンザに関する Q&A(8.31: 厚労省)

日本脳炎の予防接種のお知らせ

日本脳炎の新しいワクチン(細胞培養)が使用できるようになりました。しかし、供給量が不安定なため、案内を差し控えていました。やっと需要に添うような体制が整ったようなので、案内をします。新型ワクチンの使用には制限があるため、はじめて接種を受ける(1期の初回接種)お子さんが対象になります。

1期(基礎免疫: 6~90ヶ月)

初回接種 3~4歳(標準として)

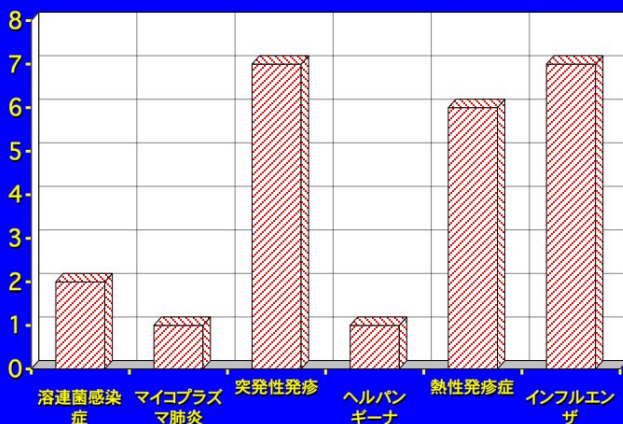
追加接種 初回接種後約1年を経過した時期

2期(9~13歳)

標準として9~10歳

1期でも5歳以上、すでに旧ワクチンを接種している場合、2期の対象者では、現在のところ新しいワクチンは使用できません(将来的に使用可?)。接種期間が過ぎると任意接種となり費用が自己負担になるため、未接種のお子さんは期間内に、旧ワクチンを接種することをお勧めします。詳しいことは、スタッフにおたずねください

8月の感染症の集計



今年は梅雨明けも無かったせい、ヘルパンギーナ、手足口病など、いわゆる夏カゼがほとんどみられませんでした。今回はグラフにインフルエンザを示しました。すべてA型で、僅か7人ですが他の感染症と比べて多く、例年の夏と比べると異例な状況です。今後新型インフルエンザは、必ず広がっていくと考えるしかありません。

9月のお知らせ

- ・東北大医学部学生実習

9月11日(金)

よろしくご協力をお願いします。

- ・栄養育児相談

毎週水曜日 13:30~

栄養士担当 無料



編集後記

今回は新型インフルエンザが身近に迫ってきたことがあり、つい記事にも力が入り字数が多くなり、読みにくくなってしまいました。院長の情熱の証として、ご勘弁ください。(笑)記事にも書きましたが、遅かれ早かれ感染する可能性がある病気です。あまり心配し過ぎないで、冷静に対処してください。症状も無いのに「検査してもらってきて」というのは、ナンセンスです。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『小学校入学前にも麻しん風しん混合ワクチンを』
Ⅲ期(中学1年生相当)、Ⅳ期(高校3年生相当)も忘れずに!